





令和3年度子育て支援活動助成事業の実績報告

資料4

	助成事業名	助成額	助成団体の事業実績報告書から転載			写真
	団体名		事業概要及び目的	事業実績	事業の成果	
1	子育て親子の交流・集いの場の提供 (地域子育て支援拠点)	500,000	<p>地域の子ども達を健やかに育む事を目標とし、家族同士の交流の場を提供し、そこで相談、援助、関連情報の提供を行い、パパママたちの不安やストレスを取り除く手助けをしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・墨田区の子育て環境の改善 「アウェイ育児」をホームに変える。 <p>親子同士が気軽にコミュニケーションを取れる関係となり、いつでも実家のように安心できる場所を提供することにより、育児でのストレスを解消できるようにする。</p>	<p>当初より蔓延防止措置期間のなか、感染対策を徹底し人数制限と個別での講座を開催し続けました。</p> <p>実施イベント講座 育児おっばい教室、両親学級、親子体操教室、0・1歳児おしゃべり会、英語教室等のイベントや講座を44回開催。延べ参加者子ども329人、大人285人、計614人</p>	<p>地域子育て支援拠点として、コロナ禍において尚一層子育て親子とのつながりが必要と感じ、その寄り添いが、妊娠期から出産後も切れ目のない支援へとつなぐことができました。</p> <p>また、障害児の親子さん含め、安心して参加できるイベントが開催できました。</p>	
	NPO法人 子育てひろば・かあかのおうち					
2	赤ちゃんブラットルーム ～助産師とママ達のお話とmini講座～	32,000	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠期から地域と繋がる機会を増やし、産後に相談できる場所を知る。 ・親同士の交流を持ち、子育ての孤立を防ぐ。 ・子ども同士の交流を持つことで、それぞれの成長や発達を知る。 	<p>2021.10.14 授乳と離乳食 参加者12名</p> <p>2021.12.10 赤ちゃんのお風呂とスキンケア 参加者6名</p> <p>2022.2.9 卒乳 参加者6名</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 気軽に専門家に相談できる機会が増える。妊娠期から地域と繋がることできる。 2. 親同士の交流から、コミュニティを作りピアサポート(妊娠や育児仲間による支援)ができる。 3. 個別で支援が必要な場合は、的確な情報提供を行い親が自立して子育てしていけるよう、多職種とも連携を取りながら支援することができる。 <p>アンケート自由記載でも母親同士で話せる機会となり、とても満足したとの回答が多く見られた。</p> <p>また、気軽に助産師と話せる機会があったとの回答もあり、開催の成果が十分に得られた。</p> <p>妊婦の参加者は周知方法が難しく今後の課題であるが、コミュニティの場所があるということを知っていた。</p>	
	公益社団法人 東京都助産師会 墨田台東地区分会					
3	SUMIDA kids CAFE	500,000	<p>食べるだけの子ども食堂ではなく、一緒に作り、食べて、加えて工作などで学べる、子供たちの居場所を作る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・21年4月4日 工作教室(オンライン) 参加人数 子ども 11人 ・21年6月13日 工作教室(オンライン) 参加人数 子ども8人 ・21年7月25日 工作教室(オンライン) 参加人数 子ども12人 ・21年8月6日 工作教室 オンライン・講師教室 参加人数 大人3人 子ども5人 ・21年8月15日 作って食べる・工作 吾妻の里 調理室 参加人数 大人10人 子ども15人 ・21年9月12日 作って食べる・工作 吾妻の里 調理室 参加人数 大人2人 子ども4人 ・21年10月17日 工作教室 オンライン 参加人数 子ども5人 ・21年10月24日 工作教室 オンライン 参加人数 子ども7人 ・21年11月27日 作って食べる・工作 吾妻の里 調理室 参加人数 大人4人 子ども5人 ・22年12月19日 工作教室 オンライン 参加人数 子ども 5人 ・22年12月31日 作って食べる・工作 空きスペース(墨田区向島) 参加人数 大人2人 子ども3人 ・22年1月16日 作って食べる・工作 本所地域プラザ 調理室 参加人数 大人2人 子ども3人 ・22年2月17日 作って食べる・工作 中止 ・22年2月26日 作って食べる・工作 中止 ・22年3月6日 オンライン工作教室(フォトフレーム作り) ZOOM 参加人数 子ども9人 ・22年3月26日(午前) 作って食べる・工作 吾妻の里 調理室 参加人数 大人6人 子ども7人 ・22年3月29日(夜) 作って食べる・工作 吾妻の里 参加人数 大人2人 子ども4人 ・22年3月31日(夜) 作って食べる・工作 空きスペース(墨田区向島) 参加人数 大人3人 子ども3人 	<p>回を重ねるごとに参加している子どもたちが、積極的に自分から動く姿が見られ、活動の継続の必要性を感じている。</p> <p>食育、工作以外にも体を使った遊び(椅子取りゲームや卓球など)も取り入れたところ、子供同士の交流に繋がりが良かった。</p> <p>主に土日開催が多かったが、夜の開催をしてみたところ参加しやすいとの声も聞かれたので、継続したい。</p> <p>子どもだけの参加も増え、参加者同士の交流も深まっている。</p> <p>今年度もコロナ禍の影響は続き、感染を心配してのキャンセルなども見られた。特に22年に入り小中学生を中心にコロナ感染者急増により、学級閉鎖・感染者・濃厚接触等が増え、主催も濃厚接触や、2度の学級閉鎖などがあり、活動に影響した。</p> <p>そのため中止にせざるを得ない回があり残念でした。</p>	
	Smile Kids Market					

	助成事業名		助成団体の事業実績報告書から転載			写真
	助成額	団体名	事業概要及び目的	事業実績	事業の成果	
4	459,000	地域食堂こだち 特定非営利活動法人 ワーカーズコープ 東京東部事業本部	<p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・孤立しがちな家庭が、食を通じて交流の輪や人とのつながりが広がる。地域の方を含めた準備スタッフや参加者同士が共に食事をとり、交流や楽しく食べる場を提供する。 <p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ終息後は、乳幼児親子や外国籍家庭、近隣住民との食を通じた交流の場とする。その場で、様々な人と出会いつながりを作るきっかけづくりを行う。また、乳幼児が過ごしやすい環境を整え、乳幼児親子がリフレッシュできる場にする。 ・保護者の家事軽減を援助し、保護者と子どもが心身共に穏やかな時間を過ごせるようにする。 ・コロナ終息後は、子どもが一人でいる時間を減らし、地域のいろいろな人と楽しく食事をすることで、子どもの孤食を防ぎ、食事を楽しめるようにする。また、一般的な食事時間に食事をとることで、空腹時間を短くする。 	<p>【2021年9月20日12時～13時】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・76人の参加。テイクアウトのみ。 <p>【2021年10月15日18時～19時・16日12時～13時】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・15日50人、16日50人の参加。テイクアウトのみ。 <p>【2021年11月19日18時～19時・20日12時～13時】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・19日60人、20日77人の参加。テイクアウト、UR集会所でイートインを実施したが利用者は少数。 <p>【2021年12月17日18時～19時・18日12時～14時】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・17日60人、18日51人参加。テイクアウト、UR集会所でイートインを実施すると、子ども達の利用が多数。 <p>【2022年1月28日18時～19時・29日12時～14時】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・28日15人、29日49人参加。テイクアウトのみ。 <p>【2022年2月18日18時～19時・19日12時～13時】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・18日11人、19日51人参加。テイクアウト、少人数でイートインを行った。 <p>【2022年3月18日18時～19時・26日12時～13時】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・18日5人、26日50人参加。テイクアウト、少人数でイートインを行った。 	<p>ボランティアについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4名の民生委員を筆頭に、ボランティアが増えていった。ポスターや口コミ、目に見える場所での実施により周知が広がり、ボランティア参加につながった。・片付けなどに男性の人手が欲しいと民生委員に相談したところ、他の民生委員のボランティア参加につながった。・鬱気味の方が受付のボランティアに参加して下さり、ボランティアをしたことで気持ちの変化があったとお話があった。・12月はボランティアの人数が多かったため、調理から片付けまで全てボランティアの方がやって下さった。・ボランティアをやりたいという声は多い。しかし、コロナの為落ち着いたらやりたいという方が多数である。 <p>新たな人とのつながりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域活動に関心のある野菜販売の方とつながった。その方を通じて、必要な野菜を無料で頂くことができた。・家庭農園をしている地域の方が、地域食堂こだちのポスターを見て野菜を寄付して下さることがあった。 <p>提供場所について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民生委員など地域の方の交渉でUR集会所にて、テイクアウトやイートインを行うことができた。そこは1階にあり、人通りのある場所なので周知につながった。・そこで行うことで、「何をしているのか」という地域の方の質問から会話が生まれコミュニケーションがとれていた。 <p>金曜日の実施について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土曜日の参加者に加え、金曜日に実施することで小中学生の参加が増えた。参加者の様子を見ると、孤食や保護者の帰りが遅い子が多い。その為、その子たちへ個別に声を掛けて参加を呼び掛けた。・孤食や保護者が帰るまでの空腹時間に対応する為、イートインを基本とした。参加者は喜んで食べ、満腹で帰る姿が見られた。また、一人親家庭などにはテイクアウトをすると喜ばれた。・これらの子ども達が無料で気軽に地域食堂を利用できるように「未来チケット」という取り組みを開始した。 <p>「未来チケット」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの孤食や保護者の帰りが遅い子に対して、無料で地域食堂を利用できるチケットの取り組みを3月の地域食堂から開始。・この仕組みは、大人が1枚300円のチケットを購入し、それを子ども達が利用することで、子ども達が無料で地域食堂を利用できるというものである。・この取り組みに賛同してくれる地域の方を増やし、より多くの子どもが地域食堂を利用できるようにしていく。 	
5	186,000	SUMIDA de REMIDA 特定非営利活動法人 Chance For All	<p>こどもたちの創造性、表現力を育む場を、アートを通してつくり、墨田区のこどもたちにとってより良い成長の場を創造する。イタリアのレッジョエミリア市で行われている、町工場から出た廃材を集めた場所「REMIDA」を着想に企画開催。墨田区の資源をいかし、墨田区のこどもたちの豊かな学びにつなげる。地域での子育て環境の向上を目指す。</p> <p>2021年12月26日(日)第1回あそび大学実施 参加人数：27名(体調不良のため3名キャンセル) 実施内容：・当日は、町工場の素材がどのような物が特徴を知ったり発見したりしてもらうため、素材体験ワークショップを実施。ウレタン、メリヤス、木材の素材について知る体験を行う。</p> <p>2022年2月4日(金)ドキュメンテーションワークショップ実施 時間：午後9時～10時半 方法：オンライン(ZOOM) 参加者：あそび大学スタッフ10名 ・イタリアのレッジョエミリア市へREMIDAの視察に行ったことのある平山先生を講師に迎え、REMIDAで行われているドキュメンテーションの手法について学ぶ。REMIDAができるまでに至った歴史的背景から、手法、具体的な実践事例まで学ぶ機会となる。</p> <p>2022年2月27日(日)第2回あそび大学実施 参加人数：27名(学級閉鎖のため3名キャンセル) 実施内容：・前回の素材に加え、大型の木材やウレタンなどを設置。ウレタンの山に飛び乗るこどもなど、体を大きく使う大胆な遊びが増える。</p> <p>2022年3月19,20日第3回あそび大学実施 参加人数：19日午前26名/午後45名 20日午前51名/午後49名 実施内容：・3月18、19、20日に開催された、千葉大学の卒業作品展にあわせて実施。 ・大体の人数把握のため事前申込制で実施したが、当日参加を希望するこどもたちが多数来場。入場待ちができるほど盛況であった。 2日間で、全4回の募集を行う。4回とも参加した子もいたが、午前だけ、午後だけ、1日だけなど、申込形態は複数に分かれた。1日目に参加した子が、楽しかったため明日も来たいと、帰り際に申し込んでいく姿も見られた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全3回、4日間のイベント中で、延べ225名のこどもたちが参加。 未就学児は未集計。墨田区の7つの町工場にご協力いただく。 ・こどもたちの様子を見守りながら、動画を撮影してくれたカメラマンより、あそび大学にいるこどもたちは、カメラを向けてもピースサインをしてくる子が全くないから驚いたとの感想をもらう。カメラが気にならないほど、あそびに夢中になれる環境づくりができたのではないかと考えている。 ・こどもたちのあそびの場をつくるためには、あそびに対する保護者の理解も必要不可欠なことがわかる。こどもたちがあそべる環境を整える際には、保護者への取り組みも併せて実施していく。 	